

12月16日～20日の間、釧路教育大学生が実習に来てくれました。学生週の様をお届けします。



### ■1日目 「食べ物好き嫌い」 授業者/菅原さん

菅原さんのテンポのよい語りかけで授業が始まる。まずは「嫌いな食べ物は何？」の問いに、生徒からはスイカ、ナス、ピーマン、ジャガイモなどの声があがり、嫌いな理由として、“変な味” “変なおい” “食感” などがあげられた。続く「好きなものは？」に対しては次々と食材の名前があがり、オムライスなどの料理名までとび出したが、理由は“おいしいから”との答えにつきた。次は、“おいしそうなおい”のはどっち？”ということで、2種類のバナナ、ミカンを生徒に見せ、さらに2種類の煎餅、ホットケーキ、そば、みそ汁を食べてもらい、その上、目隠し・鼻つまみの状態で3種類のお茶の飲み比べをした。こうして生徒は、“おいしさ”には見た目や食感、温度、舌ざわり、風味などが関係していることを体験的にも理解できた。

続いて授業は“嫌いな食べ物克服のレシピ”作りに移り、「サンマ」の克服班からはたこ焼き、お好み焼き、天ぷら、ピザ、ハンバーグなどたくさん出たが、「ナス」の克服班からはハンバーグとギョウザの2つしか出なかったのはどうしてだったんだろうか。

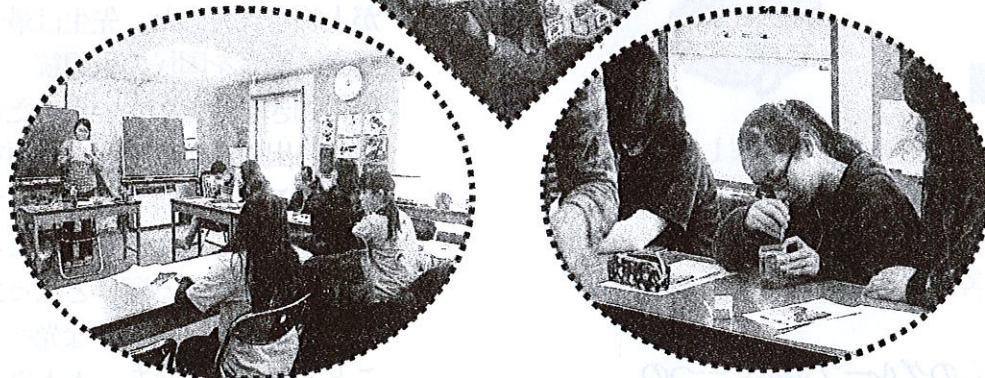
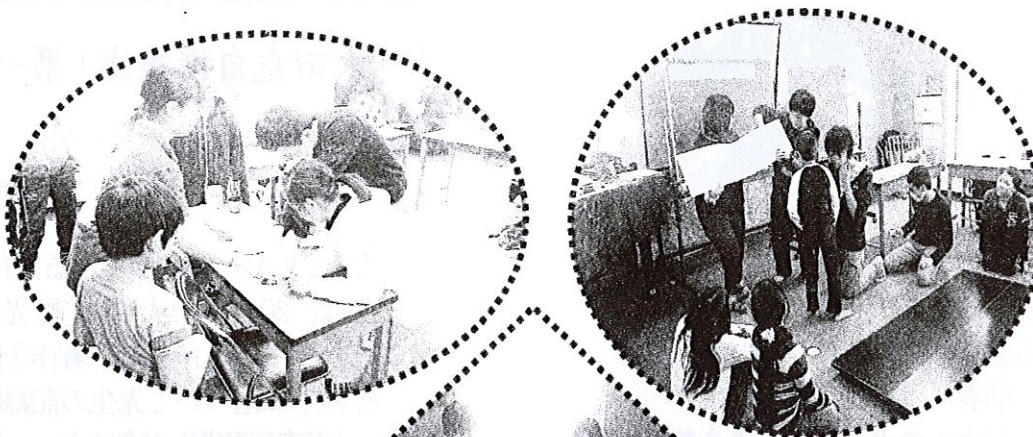
最後に、授業者が考えた克服のためのオリジナル料理“揚げサンマ”と“ナスの肉づめ揚げ”が出され、生徒は喜んで試食しながら、そのおいしさに歓声をあげていた。

### ■2日目 「アルマシオンー読書で遊ぼう」 授業者/菊地さん

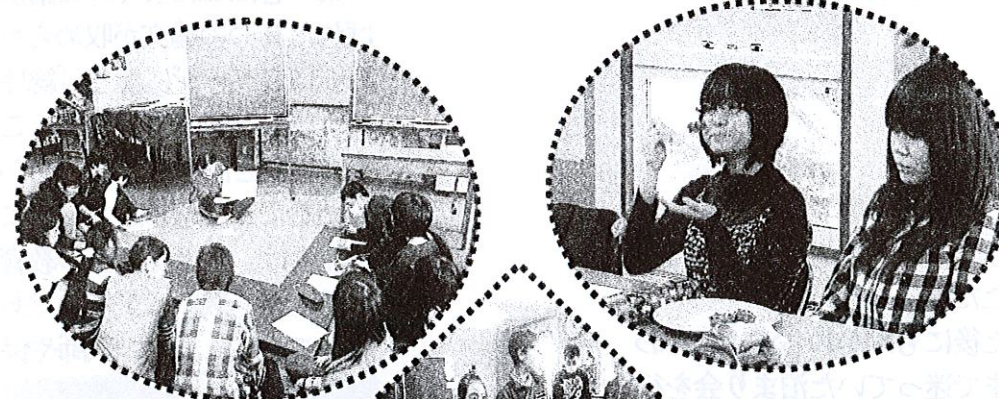
授業は生徒が授業者の菊地さんを取り囲むように床に座って開始、読書を楽しめるゲームを3つすることが話された。第1のゲームは“題名は何でしょう？”という読み聞かせで、かなり長くて物語の展開もどんどん広がるものだったが、生徒は一生懸命に耳を傾けていた。生徒が考えた題名は、“片足男の伝説”、“生命の足”、“マミの義足”などユニークで多彩なものだった。

第2のゲームは“なんて言っているのかな？”で、漫画「ちびまるこちゃん」のせりふを想像するものだった。生徒が漫画のキャラを分担して読んでいき、所々抜いてあるせりふを考えるものだが、想像を広げる可能性があまりなく、生徒には簡単すぎたようだった。

第3のゲームは“文章バラバラ事件”で、物語を小さな段落で区切ってバラバラにしたものを再構成するもので、生徒は2班に分かれて取り組んだ。物語は比較的良く知られている「牛若丸」だったので、生徒には考えやすかったようで、ほぼ再構成ができていた。



## 12月「学生週」



### ■2日目 「植物の一生を考えよう」 授業者/木立さん

タンポポの絵本を持った木立さんが登場し、生徒は絵本が見やすいように近くに集合して授業開始。この手作り絵本には、成長段階に応じた長さの“根”が実際に出てくる仕掛けがあって、小学生も大喜びで授業に引き寄せられていた。“タンポポはどうして根がこんなに長いのか”の問いかけに、生徒は“水をいっぱいやったから” “栄養がいっぱいとれるから” “食べられても根が残るから”などの答えをだしていた。タンポポの葉がロゼッタ型であることも写真で示してその理由も考えさせていたが、タンポポなどの雑草が“生きる”作戦についての授業者のまとめは、説得力が少し弱かった。

後半は、レタス、キュウリ、ニンジン、ふきのとうの絵本が次々に披露され、それぞれの一生が説明されていった。レタスがタンポポの仲間だという説明に生徒はびっくりしたが、花や綿毛の写真と説明にみんな納得。キュウリを収穫しないでさらに成長させると黄色くなること、ニンジンを畑にずっとそのままにしておくと翌年に花を咲かせることなども、生徒にとってとても新鮮な話だった。

### ■3日目 「不思議な色水と不思議な液体」 授業者/水江さん

登場した水江さんは薄紫色の液体を手を持ち、それに無色の液体を注ぐと紫色は一瞬にしてピンク色に変わり、生徒から驚きの声があがった。紫色は紫キャベツの色、注いだのはレモン汁だったことが説明され、紫キャベツの原産地の気候から“紫色”がどんな役割をするのかを生徒に問いかけた。生徒からは“紫外線”という言葉が出て、正解も「紫外線から身を守る“サングラス”のような役割」とのことだったが、生徒が納得して理解するには説明が十分ではなかったようだ。

次は生徒が行う実験で、4人の生徒が分担してピーマン、トマト、ニンジン、ブドウの汁にレモン汁を注いで色が変化するかどうかを確認した。結果はブドウの濃い紫色が少し赤っぽい色に変わっただけで、実験を見守っていた生徒も含めて物足りなさを感じさせたのは残念だった。レモン汁の性質や働き、色が変化するのとはどんな場合かなどについて、もう少し丁寧な実験や説明がほしかったが、新鮮な野菜や果物が持つきれいな自然色を見たのは生徒にとっても貴重な体験となった。

(大塚:記)

学生週後半のようすは  
6と7ページにてお届け  
します。

